

## 主な意見交換の内容

## 【テーマ】病院と地域の連携について(グループワーク)

	課題	対策
A	<p>ケアマネジャーや看護師は様々な施設から来ているため、情報を共有することができる仕組みが必要である。</p> <p>ICT情報共有ツールについて、区市町村ごとで使用しているツールが異なる等の理由があり、地区を越えて使用できていない。</p> <p>在宅医師から病院医師への情報の提供が十分にできていない。</p> <p>在宅療養に係る人材の確保が必要である。</p>	<p>共通した情報シートで情報を得られるようにする。区市町村単位で作成するか二次医療圏で作成するかはこれから議論をしていく必要がある。</p> <p>行政とも協力し、東京都全域で上手く活用できるような仕組みが必要である。</p> <p>医療だけではなく生活に関する情報(経済的に困窮している、退院後は在宅療養を継続する 等)を提供することも必要である。</p> <p>訪問看護、訪問診療を担う人材を育成できるシステムができるとよい。</p>
B	<p>医療資源マップについて、マップの活用が当該地域に留まってしまっている。病院の強み、出来ること等を、他市の医療・介護関係者が知らないことがある。</p> <p>地域の在宅医療側と病院側とで、共通認識ができていない。</p> <p>在宅医療側の事情等を病院側が把握できていない。</p>	<p>地域を越えて医療資源マップを広げていけば、医療・介護関係者がより広域に資源を把握することができる。患者側の選択肢も広がる。</p> <p>病院主導研修会等を行い、地域の医療・介護関係者が病院の中に入っていき、率直な意見交換を行う。できるだけ多職種かつ市を越えた広域で行っていくのが良い。</p>
C	<p>病院医師と在宅医師の間で踏み込んだ連携が取れていない。</p> <p>病院医師と在宅医師との考え方を近づける必要がある。</p> <p>薬剤情報を医師間だけでなく地域の薬剤師側へも共有してほしい。</p> <p>ACPについて市民への理解促進が必要である。</p>	<p>情報共有のための連携シートが必要である。</p> <p>病院医師に在宅医よりの視点をもってもらおう。</p> <p>病院薬剤師に、病院側と地域側の間に入ってもらうと地域の薬剤師にも情報が共有できるのではないかと。</p> <p>ACPに関して市民向けに行政がもっと普及啓発を行うべき。</p>
D	<p>在宅医が少ないため、在宅医に対するサポートをしっかりと行う必要がある。</p> <p>在宅医の高齢化が進んでおり、在宅医師を継いでいく人材の育成が必要である。</p> <p>施設での看取りがまだ少ない状況である。</p> <p>ICTを使った情報共有の取組がなかなか広がらない。</p>	<p>質の高いケアマネジャーが、病院と地域間のキーパーソンになる必要がある。</p> <p>質の高いケアマネジャーを育成するための研修も必要である。</p> <p>24時間体制の訪問看護を行っている所が主治医・副主治医制の副主治医のような役割を担うとよい。</p> <p>病院側のサポート体制が必要である。病院看護師が在宅医療の知識をもっと持つ必要がある。</p> <p>介護職の教育を行っていく。</p> <p>診療報酬につながるような仕組みを構築する必要がある。</p>